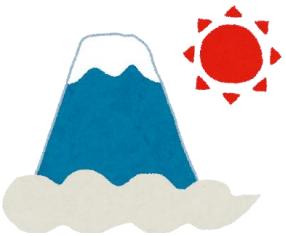
東京医科大学八王子医療センター
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HACHIOJI MEDICAL CENTER

みどりの丘

緑の『街』が見つめる医療



193-0998
東京都八王子市館町 1163 番地
東京医科大学八王子医療センター
電話　042-665-5611（代表）
総合相談・支援センター
医療連携係
発行責任者　尾田　高志
第 294 号 2026 年 1 月 1 日発行

『 最近話題の「帯状疱疹」について 』

皮膚科　教授
梅 林 芳 弘

帯状疱疹は，体の片側に「ピリピリした痛み」と「赤い発疹や水ぶくれ」が帯状に現れる病気です。

原因は，水ぼうそう（水痘）の後も神経節に潜伏し続ける“水痘・帯状疱疹ウイルス”です。子どもの頃に水ぼうそうにかかった人は，ほぼ全員がこのウイルスを体内に保有しています。ウイルスは普段は神経節内でおとなしくしていますが，加齢，病気，薬剤や放射線照射，疲労やストレスなどで免疫力が低下すると再び活性化します。こうして，その神経の支配領域に帯状疱疹が発症します。

帯状疱疹は皮膚の違和感やピリピリした痛みから始まり，数日後に赤い発疹や水ぶくれが出てくることが多いです。痛みの段階で頭部なら脳神経外科，胸や腹部なら整形外科を受診し，CT などで精査するも異常がなく，対症的に処方された痛み止めを飲んだり湿布薬を貼ったところ発疹が出て「薬の副作用!?」と誤解されるのが，典型的パターンです。

帯状疱疹は胸や背中，顔などの神経に沿って現れます。神経は左右一対ずつでどちらか片方にしか生じません。体幹なら片側を半周するように出ます。「帯状疱疹が一周すると…」という都市伝説がありますが，原則として帯状疱疹が一周することはありません。

発疹が出たら，できるだけ早く受診することが肝心です。72 時間以内に抗ウイルス薬を内服すれば重症化を抑えられます。

また，50 歳以上の方にはワクチンによる予防が推奨されており，今年度から定期接種も始まりました。公費助成の対象など，お住まいの自治体のホームページ等で確認されることをお勧めします。